

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401335		
法人名	株式会社 メガ・フレア		
事業所名	グループホーム ふれあ		
所在地	札幌市手稲区手稲本町2条2丁目4-11		
自己評価作成日	平成28年8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170401335-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170401335-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様が、穏やかに生活して頂けるよう、一人一人の生活のリズムに可能な限り合わせ、生活して頂いています。ご家族様との交流も多く「会いたい時にいつでも会える」環境です。職員と利用者様の関係は良好で、気軽に相談事を話して頂ける・冗談を言いながらお話しが出来る関係です。利用者様同士の関係も良好で、談笑したり遊んだり楽しいんで頂いている光景をよく見ます。それぞれが思い通りの生活をして頂いていると思います。看取りケアにも取り組んでおり24時間体制で医療機関と連携し、ご本人・ご家族様の希望を優先した体制で、医師との連携を図っています。職員のチームワークも良く、柔軟な対応に日々心がけています。利用者様・ご家族様にとって安心して暮らせる場所であり続けられるよう、前向きな姿勢で支援してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR手稲駅から徒歩5分の街路に面した場所にある1ユニットのグループホームである。建物は2階建てで2階の1フロアがグループホームとなっている。近くには駅のほか郵便局や八百屋、スーパーなど多くの商店があり利便性が極めて高い。法人代表者が町内会長を務める関係で、町内の多くの行事に利用者様が参加している。また、運営推進会議には半分以上の家族が参加しており、家族と良好で密接な関係を築いている。理念を各所に掲示し、職員は理念をよく理解して日々の業務にあたっている。利用者同士や職員と利用者の会話が、信頼関係ができています。定期的な職員会議やモニタリング会議に参加可能な職員が全員参加して、情報の共有とサービス向上に向けた話し合いが行われている。介護計画は3ヵ月毎に見直しが行われ、見直しの経緯が分かり易く整理されている。日々の記録も介護計画に沿って適切に記録されている。重度化や終末期の支援については、本人や家族の意向を反映しながら、事業所のできる範囲の看取り支援を行う方針とし、医療機関との協力のもと過去に複数の看取りの経験を積んでいる。共用空間には多数の絵画が飾られ、居室は利用者が自由に家具や調度品、趣味の品物など持ち込み、本人らしい居室となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で、定期的に理念を確認し、常に実践出来るようにしています。また、新しい職員が2名入社した為、理念に基づいたケアが出来るよう指導しています。	3項目からなる事業所独自の理念の中に「広く地域社会に貢献する」という文言があり、地域密着型サービスを意識した理念となっている。理念を各所に掲示し、職員は会議で理念を字に書いて確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の高齢化が進み、全体の2/3の方しか町内の行事に参加することが出来なくなってしまいましたが、可能な限り参加し地域の方達と交流して頂いています。	町内会の花植えや盆踊り、お祭りなどの行事に6名ほどの利用者が参加している。代表者が町内会長のため地域との関わりが作りやすい。区のふれあいフェスティバルの際は、毎年数名の見学者を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の協力を頂き、毎年、路上花壇の手入れや町内盆踊りに参加している事から、少しずつ当事業所の事を知って頂けるようになっていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、多くのご家族様が参加して下さり、ホームの活動について意見を頂ける事が多くなりました。その意見を職員にも伝え、サービス向上に努めています。	運営推進会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員、多数の家族、町内会長である法人代表者が参加し、避難訓練や区の情報提供のほか外部評価や研修の報告を行っている。また議事録を家族に送付している。	会議に民生委員や町内会の婦人部役員、福祉部役員など、法人代表者以外の地域関係者の参加が得られるよう継続的な働きかけを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極性を考えると、十分ではないと思いますが、必要に応じて連絡を取り、協力関係を築くように努めています。	運営推進会議に地域包括センター職員の参加を得て情報提供を受けるほか、管理者が市や区の管理者会議に参加し、行政担当者と情報交換を行っている。区のふれあいフェスティバルにも協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「自分がされて嫌な事はやらない！」という事を常に職員に伝え、相手の立場に立った行動を心がけてもらう事で拘束しないケアに努めています。玄関の施錠に関しては、交通量の多い立地である事とご家族様の要望から、日中は施錠しているのが現状です。(戸は半分の高さの扉を使用し施錠)	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを用意しているが、内部研修などは今後取り組む予定である。エレベーターホールに通じる腰の高さの扉は簡単な鍵を掛けているが、利用者でも開けられるものである。利用者の出入りがあればセンサーでわかるようにしている。	職員全員が身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるよう、マニュアルに沿って定期的に内部研修を行うことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ストレスが虐待のきっかけにならないよう、なんでも言える・相談できる雰囲気作りを常に心がけています。また、社内研修会の日程を決め、学ぶ機会を作っています		

グループホーム ふれあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は管理者会議等を通じ、学ぶ機会があります。そこで学んだ事を会議等で職員に伝えるようにしています。しかし実際は活用できる場がないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん入居前・入居後といつでも質問出来る環境作り努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが、直接お話しして下さる事が多いです。意見の内容によっては、他のご家族様に報告し、他のご家族様からも意見を伺うようにし、運営に反映させるよう努めています。	家族は平均して月1回以上来訪しており、その際や運営推進会議で意見を聞いている。得られた意見を連絡ノートや個人ごとの備忘録に記載し、共有している。また毎月写真入りの「ふれあたより」を作成し家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の職員会議、経営者との個人面談と職員が自由に意見が言える機会を設けています。日々の業務内でも、意見が出る事が多い為、早い段階で解決・反映させられるようにしています。	月1回を目途に職員会議とモニタリング会議を開催し、活発に意見交換している。年1回、代表者が職員と個人面談を行っている。職員は行事や食材管理、備品管理などの役割を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に過剰労働にならないか勤務時間をチェックしている。モチベーションを高めるために研修機会を多く設定させ個々の知識の向上を務めるように指導しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談を年2回設定し個々の悩みや問題点のヒアリング、また個々の目標設定も含めた受けたい研修等もヒアリングをし実際の研修に反映させるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回の個人面談の他に懇親会等を開催時には参加、地域のネットワークとしては町内会行事への参加を促し経営者と従業員とで参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の目でホームを見て頂き、管理者と話し、安心して頂く事が出来ればと思い、入居者前にご家族様と来所して頂く事を提案させて頂いています。また、ご家族様から多くの情報を聞き取り、不安なく生活がスタート出来るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前はもちろん、入居後もいつでもお話して頂ける・話しやすい環境を作るよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先したいという事柄を聞き取り、必要に合わせた提案をしています。また、本人の普段の何気ない会話から、必要としている事や思いをご家族様に伝え、状況に応じ柔軟な対応が出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、職員が教わる姿勢を持ち互いに支え合う関係や家族のように温かい気持ちで接するよう心がけています。その結果、気軽に困っている事などをお話して頂ける関係になってきています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年3回のご家族様参加の食事会や、お誕生会・外出レクなどご家族様と一緒に楽しむ時間を多く作り、職員と共に支えていく事が出来るようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方の面会はどの方も定期的にあります。また、電話の取次ぎもしており、安心に繋がっていると思います。	以前は利用者の友人が事業所を頻りに訪れていたが、最近は減ってきている。家族と一緒に外食やドライブ、お墓参りに出掛ける方もいる。散歩の際に近くの商店街の八百屋やスーパーに出かけ、馴染みの場所になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などを考え、お互いの存在が安心に繋がるよう、見守りながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ行っています。退去後も気軽にお話しや相談して頂けるような関係になれるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉に出来ない思いを汲み取り、何を考え・思い・感じているのか、何をしたいのかを理解しようと取り組んでいます。職員同士で情報の共有にも努めています。	言葉で思いや意向を表出できる方は半分ほどで、難しい方も表情や行動などから把握している。アセスメントシートを定期的に整備しており、心身の情報シートも追記を行う方針としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話や行動からはもちろん、ご家族様に協力して頂きながら情報xを得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のペースを尊重するよう努めています。また生活の変化や気づき等の情報を職員同士で共有し、ケアの工夫に繋げています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を開催し、意見交換を行っています。それ以外にも、必要に応じて検討しています。また、ご家族様の意向なども聞き取りながら、ケアプランを検討しています。	3ヵ月毎に計画の見直しが行われている。モニタリング会議で評価と意見集約を行い、家族にも意見を聞いて次の計画を作成している。日々の記録は計画目標の実施状況と特記事項を記録し、モニタリングに活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録にご本人の様子や言葉を残しています。そこからその方の思いや状態・変化を見つけ出し、プラン検討に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が体調不良になった時は、食事の内容を変更したり、ご家族様には何時でも来所して頂けるような体制にしています。また、主治医との協力体制も整っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム前の街路樹の花植えや町内の夏祭りに参加し、交流する機会を作っています。また、最近では外出する時にタクシーを利用する事が増え、タクシー会社の方から、気軽に声をかけて頂けるようになりました		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時や深夜など24時間いつでも対応してもらえる事が来ています。また、ご家族様の意向も聞いて下さり、安心に繋がっています。	ほとんどの利用者は協力医の往診を月2回受け、家族支援のもとかかりつけ医に通院する方も2名いる。受診内容を個人ごとの「医療記録表」に記載し共有している。	

グループホーム ふれあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時に、体調面を含めた気づきを報告しています。また、必要に応じ、主治医に伝達してくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は基本情報を手渡し、入院先でも安心して生活して頂けるよう情報提供をしている。入院期間中や退院時も情報を頂き、退院後、住み慣れた環境で安心して生活して頂けるよう支援してます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居してから長い方が多数いらっしゃる、今年度、改めて終末期のあり方、ホームの方針をご家族様に説明しました。また、ご家族様の現在の気持ちを聞き取り、主治医にも伝えていきます。	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」を説明し署名捺印を得ている。看取りの際の支援内容を説明し、事前確認書も取り入れている。医師の協力のもとできる限りの支援を行う方針とし、過去に4名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応・事故・転倒時の対応について、勉強会を開催しています。また、マニュアルもすぐ見れるところに置いてあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防立ち合いのもと、昼夜を想定した火災訓練を行っています。その際、事前に火元は知らせず、より現実に近い訓練を行っています。	年に2回、昼・夜を想定した避難訓練を実施しており、消防や家族の協力を得ている。職員の救急救命訓練も定期的に行い、災害時の備蓄品も用意されている。	地震や水害、停電等、火災以外の災害に対する対応についても、マニュアルを用意し、具体的な対応について定期的に確認しておくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が距離を感じないよう、心地よいと感じる声のかけ方や表情での対応を心がけています。	プライバシーに配慮し介護記録等はノートパソコンに記録し、人目につかない場所に保管している。職員は利用者寄り添い優しく話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の能力に応じて質問や言葉を変えたり、意思疎通の難しい方は身振り手振りや表情で希望を表してくれるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	過ごしやすい生活リズムを優先し、状況によって一人一人違う対応をしています。決まり事を出来るだけ作らず、職員間の意識の開きが起らないよう意見交換を行うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る方は決めて頂き、出来ない方はお手伝いをしています。出来ない方の中には、選択しを減らす事で選ぶ事が出来る方もいらっしゃいますので、支援法を工夫しています。		

グループホーム ふれあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付けなど、出来る範囲で行っています。お誕生会の時は、お誕生者様に食べたい物を聞き、要望があればメニューに入れています。日々の会話の中で出てきた希望も出来る範囲で答えています。	食材は一括注文で搬入されるが、日により内容を検討しパンや麺類等の違うメニューで提供している。外食の機会も多く、祭日やイベントで楽しめる食事内容に変更している。調理の手伝いや茶碗拭きなど、できる範囲で手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量・食事量を記録に残し、状態を把握しています。水分に関しては、1日の状態がすぐに解るよう表をつくり常に把握できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来てます。毎週1回、訪問診療を利用しており、必要に応じ、診察やアドバイスを頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来るよう、定期的な声かけをしています。また、夜間、ポータブルトイレを設置して対応している方もいます。	水分摂取量と排便排尿回数を個人記録に記入している。オムツの交換は、居室にてプライバシーに配慮して行われている。無排便が続く場合は、下剤にて整腸管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員の排便管理表を作り、把握出来るようにしています。毎日、乳製品を摂取する工夫もしています。必要に応じて、主治医に相談し指示を頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴を楽しんで頂けるよう一人の時間を長く設けています。また、利用者様の状況に合わせて、職員2名での介助や清拭を行っています。	毎日2~3人が、午後の時間帯にゆっくりと時間をかけて入浴をしている。入浴剤を使い、同性の職員と楽しく話をしながら個別の入浴支援をしている。シャワーチェアも用意されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調やリズムを優先し、一人一人が取りたい時に休息がとれるよう支援しています。ご自分の思いを伝えられない方へは、職員が気持ちを察知し声かけを行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療記録を作成し、薬の情報を提供しています。薬の内容に変更があった時の理由や、副作用の説明があった時も医療記録に記載し、個人記録に閉じ、ご家族様がいつでも確認出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共有スペースに遊び道具や文具を置いて好きな時に自由に手に取り、楽しんで頂けるよう工夫をしています。		

グループホーム ふれあ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は月に1～2回、ホーム全体での外出を計画しています。また、ホーム周辺の散歩等も行っています。外出する時、車椅子を利用する方が殆どの為、外出先によっては、ご家族様に協力して頂き外出しています。	散歩を兼ねて商店街へ果物やお菓子を買に行ったり、近くの公園や街路樹の花を見に行っている。外食の機会も多く、水族館や神社祭、盆踊り、テレビ塔に出かけている。冬季は外出が減るので、外気に触れることができるよう取り組む意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が、施設でお預かりしています。一緒に買い物に行った際は、預かり金から、支払いを行って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、いつでも自由に電話でお話し出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂く為に、季節に応じた作品を利用者様と一緒に作り、共用スペースに掲示しています。また行事での写真や植物を置くなど、居心地の良い空間になるよう努めています。	廊下に大きな絵画が飾ってある。鉢植えも多く、色とりどりの花からは季節感が感じられ、行事の写真や利用者の作品を飾り、温かみがある。扇風機や窓からの風で温度調節をし、冬期は濡れタオルを利用して乾燥を防ぐ工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、ロビーには椅子や植物を置き、静かに過ごせる空間を提供しています。リビングのテーブルで仲間同士で遊び、楽しんでいる方もおられます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物・思い出の品・好きな物を居室に置いて頂き、居心地よく過ごして頂けるよう支援しています。また、生活レベルに応じた、居室作りを行っています。	使い慣れたタンスやベッドなどの物品を持ち込み、落ち着いた暮らせる部屋になっている。時計、扇風機、ソファ、ポスター、家族の写真などを飾り、居室は居心地のよい作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が解らなくなった時にすぐ説明できるよう、床の色を変えたり、手すりの無い所にはテーブルを置き、掴まる所を作るなど、安全に安心して生活して頂ける為の工夫をしています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ふれあ

作成日：平成 28年 9月 26日

市町村受理日：平成 28年 10月 5日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	2か月ごとに開催している運営推進会議には、包括支援センター職員・多数のご家族様が参加して下さっているが、地域・町内の方の参加が少ない。	地域の方の協力を得られるよう、民生委員・町内会役員などに働きかけ、参加協力依頼をしていく。	毎回の参加を依頼する事から始めるのではなく、まず、数回の参加からお願いし、ホームの事を知ってもらおう。	1年
2	6	身体拘束のマニュアルを用意しているが、社内勉強会の開催が少ない。	社内勉強会の開催。	社内勉強会を改めて開催するのではなく、定期的に職員会議を行っている為、会議の時に具体的行為について勉強していく。(定期的に行う事で、拘束禁止の理解を深めてもらう。)	3か月
3	35	年2回、昼夜を想定して火災訓練は行い、避難誘導等の確認を行っているが、火災以外の災害に対する対応について確認をすることが少ない。(備蓄品は用意しているが対応法のマニュアルが無い)	火災以外の災害に対する対応について、勉強・確認する機会を作る。	災害対応マニュアルを作る。それを基に、勉強会を開催する。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。